

## 令和7年度学校評価中間報告書

学校名（廿日市市立宮園小学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
確かな学力	○基礎・基本の 定着・活用	・特性や進度等に応じた学習（自由進度学習） ・知識を活用・発揮する協働的な学びの実践	・自ら進んで学習に取り組む児童の割合（アンケート） ・廿日市市学力定着状況調査における思考判断表現の目標値を達成する児童の割合	95%  75%	95%		100%	A	導入して6年目を迎えた自由進度学習の成果が出ている。教材研究と児童理解をさらに深め、児童のやる気を引き出す学習を進めていきたい。	自由進度学習については、授業の準備は大変だと思うが、子どもたちはとても楽しそうに学習している。ICTを効果的に使っている。コンパスなどの道具の使い方が難しいような児童がいるようなので、支援が必要。	教材研究や児童理解にPDCAのサイクルを取り入れ、より、ブラッシュアップさせていく。引き続き、自由進度学習や個人探究学習にとどまらず、一斉授業や特別活動などにおいても児童が主体的に学べる環境づくりを積極的に仕組んでいく。
	◎主体的に課題解決に取り組む態度の育成	・興味関心に応じた課題に取り組む機会の設定（個人探究学習・自主学習等）	・課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童の割合（全国学力・学習状況調査児童質問紙及びアンケート）【市共通項目】	85%	99%		116%	A	自由進度学習では、特別支援教育の視点も積極的に取り入れたことにより安心感のある学習環境が整い、児童の主体的な学びにつながったと考えられる。		
豊かな心	○規範意識・相手意識の醸成	・相手や場に応じた挨拶・言葉遣いの指導の徹底	・「自分から進んであいさつできる」児童の割合（アンケート）	95%	92%		97%	B	進んで挨拶ができている児童が多いが、比較的に低学年の数値が低かった。	役に立っていないと感じている児童が1割以上いるのは決して少なくない。いい所見つけが形骸化していないか見直したり、家庭でも取り組んだりしてほしい。少人数だからできることをプラスに考えて取り組んでほしい。	良い挨拶のモデルを具体的に示したり、挨拶名人の取り組みをより意識させる。  自他の良さに目を向けるような取り組みを各学級で行う。縦割り遊びなどで異学年交流を行う計画を立てる。
	◎自己有用感の向上・他者理解の促進	・多様な他者と協働する活動の場づくり（いいところ見つけ・縦割り班活動等）	・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童の割合【小中共通項目】（アンケート）	90%	89%		99%	B	全体的に1割以上の児童が役に立っていないと感じている。自他の良さに気付いていないことに課題がある。		
健やかな体	○生活・健康に関する自己管理能力の育成	・「安全・安心」「チャレンジ・自己実現」を基盤とした生活習慣の確立	・「スマホやタブレット、ゲームなどのメディアを家庭のルールを守って正しく使っている」という保護者の割合（アンケート）	80%	92%		115%	A	メディアのルールは家庭によって比較的に決めて守らせているようだが、家庭によってルールの明確さや具体性に差がある。	家庭によって差はあり、統一は難しいだろうが、推奨ルールを示すことはいいことである。調べ方として、ネットだけではなく本の信用度は高いので本でも調べることで、ネットの情報へのリテラシーを身に付けてほしい。子どもにも伝えてほしい。	家庭のルールの統一は難しいが、推奨ルールなどを明示し、家庭ルールの改善につなげる。  体育委員会などに月の推奨運動遊びを考えさせる。また、授業内で主運動につなげる副運動のメニューなどを提示して運動量を確保したり、昔遊びのコーナーを整備したりする。
	○体力づくりの推進	・運動に親しむ時間と場の設定（ロング昼休憩・朝遊び）	・「体を動かすことが好き」という児童の割合（アンケート）	90%	93%		103%	A	多くの児童が体を動かすことが好きと回答しているが、日常的な運動量が少ない児童や、体力測定項目（上体起こし、長座体前屈）に課題が見られる。		

信頼される学校づくり	○働きがい改革の推進	・日課、行事、活動の見直し及び精選	・子どもと向き合う時間が確保されていると考える教職員の割合【市共通項目】(アンケート)	95%	92%		97	B	行事の見直しと精選、時間を決めて会議を行うなどして、勤務時間内における個人の作業時間の確保をしている。	地域のために自分ができることをしたいと思う児童の割合が高く、うれしい。地域の活動でつながれることがある。学校からの配信や掲示などしてもらい、ことを続けてほしい。児童は地域の方に支えてもらっている感謝の気持ちを持っている。	教材研究や分掌の仕事の時間を確保し、教職員の心理的安全性が高い、より働きやすい環境づくりを考えていく。
	○ふるさとに愛着をもつ児童の育成	・地域学習の充実	・「地域のために自分ができることをしたいと思う」という児童の割合(アンケート)	70%	92%		131	A	日頃からの連携や第2回学校運営協議会の熟議を通して、地域の諸団体との交流を行い、学習支援もしていただいている。児童は地域の方に支えてもらっている感謝の気持ちを持っている。	地域のために自分ができることをしたいと思う児童の割合が高く、うれしい。地域の活動でつながれることがある。学校からの配信や掲示などしてもらい、ことを続けてほしい。児童は地域の方に支えてもらっている感謝の気持ちを持っている。	今後も地域学習を通して、地域への愛情をもち、さらに地域へ貢献しようとする意識づけを行っていく。そのために振り返りまでしっかり行い、自分は地域のために何ができるのか具体的に考えさせるようにする。

※ 中間評価は、8～11月に実施することとする。

※ 中間報告は、本年度の重点目標についてのみの報告でもよいこととする。

※ 中間評価の実施月を記入し、この時点での実数値を記入する。

※ 「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値／目標値」である。

「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)

「不登校児童生徒が〇人以内」等逆転項目の評価については、2～4段階で評価できるよう学校で定める。

※ 達成度の度合いから、評価項目・評価指標・目標値が適切であったかという視点でも見直し、目標値の修正や指標の変更・追加があってもよい。

※ 中間報告書の提出の際には、学校関係者評価の結果が反映されていなくてもよい。

※ 参考資料があれば添付すること。